

令和7年度（2025年度）第2回東海市こども・子育て会議 議事録

- 1 日時 令和8年（2026年）2月5日（木）午後2時～午後3時10分
- 2 場所 東海市役所302会議室
- 3 出席委員（11名）  
会長 山崎康一郎、職務代理者 坂田弘毅、高本響子、吉村清香、川北夏代、近藤高史、宇野まゆ子、八澤佳子、石田弘枝、竹之内由佳里、唐澤貴斗
- 4 欠席委員（5名）  
塚田洋介、丹羽里奈、加藤真治、高木由起子、加藤暢子
- 5 職務のために出席した職員  
市民福祉部長 植松幹景、幼児保育課長 小島英泰、同統括主任 宇賀神雄也、健康推進課主任指導保健師 大串文子、学校教育課指導主事 加藤雅尚、社会教育課統括主任 浅井貴史、社会福祉課統括主任 井上綾、こども課長 永井直子、同主幹〔子育て支援センター長兼結婚応援センター長〕 能登谷宏美、同主幹 佐田知子、同統括主任 中本雅江、同統括主任 堤仁勇、同主任 西村美紀
- 6 公開、非公開の別  
公開
- 7 傍聴者数  
0人
- 8 会議日程
  - (1) 開会
  - (2) 協議事項
    - ア こども計画の変更について
    - イ こども計画の評価方法・様式について
    - ウ 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 9 会議内容
  - (1) 開会  
(山崎会長あいさつ)

皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中、こども・子育て会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

最初に私が経験したことで、皆さんにお伝えしてみようと思ったことがあります。発達に凸凹のあるこどもの支援について検討するなかで、大人もこどもも一生懸命やっていたけれど、遊びという創造的で主体的なものが不足すると、しんどくなってしまうとあらためて思いました。この会議はこどもや子育てに関することで、遊びが持っているクリエイティブな力や主体性のようなことを、皆さんもたくさんお持ちだと思っているので、いかに発揮しながら、様々なご意見をいただければと思います。

2回目となる今日は、新たに始まる乳児等通園支援事業を含め、協議事項がありますので、皆さんのお考えをそのまま伝えていただければと思います。また、その他の項目では、今年度進めてきました主な事業について報告させていただく予定ですので、これらの取り組みについても、皆さんと共有しながらより良いものになるよう、ご意見をいただければと思います。

限られた時間ではありますが、東海市のこども・若者と子育て家庭のより良い環境作りに向けて、皆さんいろいろな経験や知識を活かした議論になることを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議題に入ります。

## (2) 協議事項

### ア こども計画の変更について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いいたします。

無いようですので、続いての説明をお願いします。

### イ こども計画の評価方法・様式について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いいたします。

(坂田委員)

評価シートがこの内容でよいかどうかを確認する場という認識でよかったです

しょうか。

(事務局)

ご意見があれば、修正等の対応をしていきたいと考えています。

(会長)

その他いかがでしょうか。

無いようですので、続いての説明をお願いします。

ウ 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等があればお願いいたします。

制度が始まり、どのような状況であるか次回お知らせいただくようお願いいたします。

(3) その他

今年度進めてきた主な事業について

事務局より説明

(会長)

全体を通して、何かご意見があればお願いいたします。

(坂田委員)

二点あります。一点目が、屋内の遊び場について、市内の大学生から話を聞いたとありますが、子育て世代より先に大学生から話を聞いた意図をお伺いしたいです。もう一点は、子ども会に入りたいが、保護者の負担があると聞くので、保護者の支援を考えていただけるとありがたいです。

(事務局)

一点目の屋内の遊び場については、初めに計画策定へのアンケートや児童館でのインタビューを行っています。これから子育て世代となる大学生の意見もいただきましたが、来年度以降子育てをしている当事者の方から、再度意見を聞く場を設けたいと思っています。

二点目について、東海市子ども会連絡協議会としては、今年度から保護者に役員を強制するのではなく、東海市子ども会連絡協議会の方が自らボランティアを募集するという形で負担を減らしました。

(会長)

石田委員や竹之内委員からも、保護者の立場からこのようにしたら負担が少なく子ども会に入れるのではというご意見はありませんか。

(石田委員)

こどもが3人いたら3回役員を引き受けないと、という暗黙のルールがあり、とても負担を感じました。会議などはオンラインを活用するなどすると、役員の負担を減らしていけるかと思います。

(竹之内委員)

私は役員をやるのが当たり前だと思っていた世代。今のお母さん達は、仕事などで日々忙しい。無理やり地域で役員を出すのではないという現在の形が子育て世代に伝わっているのでしょうか。面倒くさいということばかり広がっているような気がします。

(事務局)

ホームページや子ども会の説明会で説明しており、町内会・自治会単位やコミュニティにもこども課や社会福祉協議会の職員が出向き、地道に説明を続けていますが、まだ全域に認識が広がっていない状況です。今のところ、小学校では説明していません。

(会長)

時間を使ったり色々考えたりすることを、負担だと思うか、遊びだと思うか。こちらが負担というストーリーを作ると負担だと受け止められてしまいますが、こんな面白いことはないよともっていけると良いのかなと思ったりします。

(会長)

皆さんから一言ずつコメントをいただこうと思います。

これまでの議論を聞いて、皆さんはどう思われましたか。こどもの育つ環境は随分変わりました。SNSを通じたコミュニティとのコミットは、かつてはありませんでした。そこに関わっていると膨大な時間を消費してしまうし、様々な人間関係の難しさもあり、心のエネルギーを使うため大変だと思うし、親御さんも自分はやりたくなくてもこどもがやっているSNSを知る必要もあったりします。

ただ、こどもが楽しいと思えることは、昔も今も変わらないのではないかと思ったりします。対面での人との繋がりや、時には異なる価値観の人と交流して視

野が広がるのは素晴らしいので、楽しい負担と捉えてもらえると良いのかなと思いました。

また、学校が綺麗になってほしいなどという要望があつたりしますが、要望に対しても大人がやってしまうのではなく、どうしたら学校が綺麗になるか大人とこどもと一緒に考えるのも面白いのではと思いました。

(坂田委員)

岐阜市内では小学校の子ども会から上がった中学生をジュニアリーダー、高校生をハイジュニアリーダー、大学生をシニアリーダーという位置づけをしており、大学生は、中高生が地域のリーダーになるような関わり方をしている。子ども会から要望があると、中高生と一緒に大学生が出向き、小学生は、より年が近い人たちが遊びを促してくれるので、大変盛り上がりました。

(宇野委員)

こども食堂の活動では場所と道具を提供していますが、大人が遊びを促していません。物や道具が揃っていて安全な空間さえあれば、こども達は遊びを生み出せます。自由に遊べる空間が東海市内にたくさんあると良い。昔よりルールが多いように思う。もう少し寛大だと良いと思います。

(八澤委員)

保健所の立場と、保護者という立場からお話します。

母子保健の推進、特に虐待予防ということで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援と人材育成のために、事例検討会を専門家の先生を招いて行っています。支援の力を高めるため企画運営も行っています。お子さんが、心も身体も健やかに成長出来るような環境整備が進むとよいと思います。

子ども会について、私としては、地域のお母さん方とこどもさんと仲良くなれるのがとても楽しく、負担はありましたが、地域の方のことも分かる良い機会でした。

(石田委員)

こども誰でも通園制度について、あすなろ学園は親子で通園する形になるのでしょうか。大堀保育園と支援センターとの棲み分けをしているところが面白いです。子育てをするお母さんたちは、一人になりたい時間がある。お父さんも育休を取得するようになり、だいぶ協力してくれることが増えてきましたが、やはり

お母さんの負担は大きいと思います。

(事務局)

こども誰でも通園制度は、あすなろ学園を含め、親と子は離れるという形です。

(竹之内委員)

私は長く児童館で働いていました。乳幼児への支援はとても手厚いと思います。一方で、児童館には学校に行けない中学生や高校生も遊びに来たりするのですが、力いっぱいボールを投げたり身体を使って遊んだりするには、小学生用のキャパシティである児童館では狭すぎると感じています。以前の青少年センターのような、中高生が身体をおもいきり動かせる場所があると良いと思います。

(唐澤委員)

屋内こどもの遊び場のワーキンググループに参加しました。旧温水プールをリノベーションして使用するの面白いと思います。今後自分が子育て世代となるにあたり、自分が忙しい中でもこどもたちが安心して楽しく遊ぶことができる場所を作っている東海市はとてもよいと思いました。自分のこどもが出来たら連れて行きたいです。

(近藤委員)

少子化や未婚の問題は、事業承継の問題に直結するため、商工会議所でも話題になることが多いです。結婚の応援活動をしたらどうかとも思いますが、マッチングアプリやSNSが発達しているので、出会いの場を与えることがどれだけ効果があるのかとの見方もあり、実際の活動には結びついていません。10年程前までは、街コンなどがもてはやされた時代もありましたが、現在は事業者も撤退していった状況です。最終的には、お金の問題に行きつくケースが多いので、経済基盤の安定に主眼を置いた施策を厚めにする、少子化には効果があるのではないかと思います。

(川北委員)

子ども会活動について、確かに仕事を休んで役員をしたりイベントの準備や会議に出席したりするのは、負担といえば負担ですが、当時付き合いのあった方とは、長年経った今でもお付き合いしており、近所付き合いも出来て悪いことでもなかったと思っています。現在、私の地域では、コミュニティ単位でイベントを企画・運営してくださっていて、役員の負担は少ないと聞いています。これにつ

いても回覧板で回ってきたので、おそらく私の地域では皆知っているのではないかと思います。

また、結婚応援についてですが、現代は、彼氏彼女というよりも、推し活や趣味に費やしている人も多く、結婚という価値観が薄れてきていると思います。

(吉村委員)

地域福祉として、地域に出てこどもから高齢者まで幅広く様々な方と仲良くなるのが社会福祉協議会の仕事ですが、最近は引きこもりや不登校のお子さんの相談を受けることが増えてきました。学校に行くことや、勉強を頑張ることに目が向きがちですが、それよりもその子自身に元気がたまらないと生きていくことすら難しくなります。家族以外で様々な価値観をもった人に触れて、その子自身がどうしたいかに立ち返る必要があるのではないのでしょうか。

(高本委員)

まちのこクラブは児童館の役員の団体ですが、なかなか役員を引き受けてくれる方がいません。子ども会の話とも同じですが、私も1年通して楽しく、友達も増えたので、ポジティブな面を前面に出して誘っていこうと思っていますが、「役員」と聞くだけで、積み重なってきたネガティブなイメージが強すぎて話を聞いてすらもらえません。もう少し、地域でこどもを見守るというポジティブなイメージが広がったら良いと思いました。

(会長)

皆様のご意見を伺うことができ、非常に興味深く、なるほどと思うことがたくさんありました。私たちの視野を広げて、出来るだけこどもさんや親御さんと同じ目線で見られるように考えていければと思います。どうもありがとうございました。

(4) 閉会